まほらいな市民大学の様子

令和６年４月２９日（月）第４６回高遠町桜大学第１講座

『　磐梯山麓の地に祀られる正之公 』

講師　土津神社氏子会　会長　安藤　孝一　氏

安藤孝一氏から、会津守護神「土津神社」造営の話がありました。保科正之公は、徳川２代将軍秀忠の四男で、３代将軍家光とは異母兄弟。3 歳から見性院に養育され、7 歳で高遠城主保科正光公の養子となった。正光公死去後 21 歳で高遠 3 万石、26 歳で山形 20 万石、33 歳で会津 23 万石の城主となった。会津藩主正之公は、自分の御寿蔵(墓)を見弥山に定め、磐椅神社の末寺となってここに埋まろうと決心されました。その後江戸に戻った正之公は、長旅の疲れかすぐに病床に就き、1672 年 12 月 18 日未明生涯を閉じられました。享年 62 歳であった。

土津霊神の碑は、重さ 30 トン、高さ 1 丈 8 尺(7.6m)、幅 6 尺(約 182cm)、厚さ 5 尺（約 151cm）余の巨石であり、八田野の山中から岩石を引き出し、運搬の人足は 1 日 2 千～3 千人で、約 16km の距離を運んだと言われる。碑文は山崎闇斎が撰文、文字数は 1943 字、筆者は上佐兵衛高庸で、石に彫刻された。台座は亀石と呼ばれ、中国の故事によるものである。碑は延宝 2 年 9 月 22 日に完成した。

土津神社は延宝 3 年 8 月 19 日に完成。東北の奥日光とも称される豪華な社殿が造られた。しかし幕末、戊辰戦争が起き、神社は焼き払われ廃社となった。ご神体は鶴ヶ城、磐椅神社、斗南藩(青森県)に移され、廃藩置県により猪苗代の磐椅神社に戻り、土津神社が復興された。会津藩を末長く守る土津神社について安藤氏から詳しく話がありました。

学生からは、「昨年市民大学の研修旅行で土津神社を訪れており、本日の講義でさらに詳しく知ることができました。」「神社が建つまでの苦労だけでなく、廃社の憂き目にあったことなど思いもよらず、神社を守る大切さを知りました。」「正之公への思いが今も会津・猪苗代の人々の受け継がれていることは素晴らしいことだと思った。」といった感想がありました。